

園長の ちょっと いい話



園長 石井篤子

初めてお母さん、お父さんと離れ

集団の中に入ることになった子どもたち

新入園児は 大合唱から……ス～ス～寝息の季節へ

私の人生の指針

米国で最も影響力のあった
発達心理学者・精神分析家

■ エリク・H・エリクソン

(1902～1994)

基本的信頼の基盤である、人を信じる力と自身を信じる力は表裏一体のもので片方だけというのではない。「信じる」ことができる人をもてないと、人間は自分も信じる事ができなくなる」ということも、エリクソンは説き明かしました。

親や友達等に出会うことで、相手と共感する感情を育てることが出来る。この共感性という感情があるから、相手に対するおもしろいとか相手の喜びを自分の喜びにすることができ、大きくなるにつ



すくすくワールドに今年も新しいメンバーが増えて、朝は大合唱の日々が続きましたが、少しづつ心地よい合唱に変化してきたようです。

4月入園の子どもが、5月入園のお友達にとまじり姿もありました。「私 やっと先生やお友達のことを覚えて保育園のリズムにも慣れてきたのに、なんか騒がしくなったわね」という気持ちだったのかもしれない。でも少し先輩の行動は、5月入園のお友達には心強いものがあつたことでしょうか。4月入園のお友達が先生を信頼している姿をみて、

ここは安心していいところ？

「ここは 安心していいところなんだな、ここにいる大人は、信頼してもよさそうだな」と感じてくれたことでしょうか。先輩、後輩ともに、しっかりと役目を果たしてくれています。

すくすくルール

- 1 何かしてもらったら その場で「ありがとう」と言う。
 - 2 何かしてしまったらその場で「ごめんなさい」と言う。
 - 3 呼ばれたらすぐ「ハイ」と返事をする。
 - 4 昼寝の時は「おやすみなさい」と言う。
 - 5 食事の時は「いただきます」
- 「うちそうさまでした」と言う。

社会性発達のステップは 人を信じることから始まる。

(エリクソン)

さんになって一番偉いんだと少し勘違いをしていた子どもたちも、「一年長さんでどうしたらいいのかわか？」と先生と話し合いをして、本当の年長児としての自分の立場を理解していききます。年中さんは一番立場上難しいようですが、時には年長さんに頼り、時には年少さんに目を向けてあげたり、自分の立ち位置を探っているように感じます。

いろいろな先輩方があれやこれやと世話をしてくれて、とってもいい気分です。でもこの頃は、年中さん、年長さんに頼らなくても自分でできることが増えてきましたね。子どもは、いい見本があるとそれを真似ることとで心が成長していききます。私たちの役目は子どもたちが日々を過ごす環境作りだと思っています。

家庭とは違った保育園のルールがあることを知り、それに順応していくことで、少しずつ社会性を身に付けていきます。